

主題構成表	主題名	友達への思いやり	資料名	ぐみの木と小鳥
--------------	------------	-----------------	------------	----------------

■ **内容項目 2-(2)**
 身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。

■ **児童の実態**
 ・この時期の児童は、友達関係が少しずつ固定化してきて、気の合う仲間同士では親切な行為を自然に実践できる。例えば、学習時、困っている子がいると、自然に助けにいくことができる。
 ・自分とかかわりの少ない人々に対しては、自分の楽しさが優先する時がある。

■ **意識の要因**
 ・相手の気持ちを思いやって親切にしなければならない状況に気づけない。
 ・親切にされても、感謝する気持ちが十分に育っていないので、物を戴いても、お礼を言える子が少なく、親切にすることの大切さ(意義)に気づいていない。

■ **価値の分析**
 ・親切とは、自分の利害を乗り越えて、相手の身になって考え、手助けをし、共に喜び合うことである。
 ・この親切な行為には、他人の苦しみや悲しみをその人の身になってどれだけ思いやれるかという同情心も深くかかわってくる。
 ・多くの人々とかかわり合って、自分自身もまたよりよく生きていこうとする中で、これらの心情や行為は不可欠なものとなってくる。
 ・親切にした方も、された方も、互いに温かい気持ちになり、人間関係を和やかなものにしていけることの大切さに気づかせたい。

■ **資料の分析**
 ・毎日来ていたりすがこの頃来なくなったことを心配したぐみの木が、小鳥にりすのことを相談する。このことから、相手を思いやる気持ちを感じ取らせることができる。
 ・小鳥がぐみの実を持ってりすの所へ行ってみると、りすは病気でねていた。小鳥は次の日も来ることを約束する。しかし、次の日は嵐。それでも小鳥は、ぐみの実を届けた。このことから、親切な行為を実践する力強さと優しさに気づかせたい。
 ・ぐみの実を受け取るりすの姿から、親切に感謝する気持ちに気づかせたい

■ **ねらい**
 困っている人や弱い立場の人を思いやり、温かい心で接し、進んで親切にしようとする態度を養う。

■ **展開の構想**
 ・毎日来ていたのに来なくなったりすの様子を気遣うぐみの木の様子から、自分たちの周りには、自分たちに気を配ってくれている人がいることに気づかせる。
 ・小とりが、嵐の中をぐみの実を持ってりすの所へ行く姿から、人を思いやる心情を深め、ねらいとする価値に迫る。また、約束を守ることの大切さにも気づかせる。
 ・ぐみの実を受け取るりすの姿から、温かい心で接すると、互いの間に大きな喜びが生まれることに気づかせる。
 ・展開後段では、自分に優しい心を生み出すために、相手を思いやり、進んで親切にしようとする態度を養う。

■ **基本発問(◎中心発問)**
 ○ ぐみの木からりすのことを聞いた小とりはどんな気持ちだろうか。
 ◎ 嵐の中をりすの家に向かって飛んでいく小とりは、どんなことを思ったか。
 ○ 喜ぶりすを見て、小とりはどんな気持ちだろうか。
 ○ 今まで親切にしたりされたりしたことを思い出して、その時の気持ちを考えよう。